

令和元年度 第3回産業振興審議会 会議録

1. 日 時 令和元年12月23日(月)午後6時30分～午後7時30分
2. 場 所 市庁舎GF 会議室A・B
3. 出席者 委員(会長) 習志野商工会議所 高橋 正英 氏
委員(副会長) 習志野市商店会連合会 鈴木 和弘 氏
委員 千葉みらい農業協同組合 織戸 淳也 氏
習志野市農業士等協会 渡辺 勇 氏
習志野市まちづくり観光推進協議会 市川 隆子 氏
日本大学生産工学部 西澤 一友 氏
東邦大学理学部 久保田 宗一郎 氏
市民 長谷川 丈雄 氏

オブザーバー 習志野商工会議所 山野井 武 氏

事務局 協働経済部 部長 片岡 利江
協働経済部 次長 根本 勇一
協働経済部(産業振興課) 副参事(産業振興課長) 奥井 良和
協働経済部(産業振興課) 主幹(係長) 忍 貴弘
係長 千葉 義則
係長 藤島 明子
主査 米倉 富雄
主任主事 樋口 拓朗
主任主事 米納 祥
主事補 佐古 大輔

4. 会議の概要

1) 会議録署名委員の選出

会長の指名にて西澤委員と久保田委員が会議録署名委員となった。

2) 審議の概要

■次期習志野市産業振興計画の策定について

【事務局】

本日の審議事項は、「次期習志野市産業振興計画について」とさせていただきます。

前回提示した「たたき台」から1段ステップアップして、「素案」を提示させていただきます。審議のほどお願いしたい。

【市川委員】

38ページの「観光の振興」の中でシビックプライドという単語があるが、これを使おうとする意義はなにか。また、今までと違うことをやるということなのか。

【事務局】

シビックプライドという表現は、広報課シティセールス係でも使用しているため、こちらでもそのような表現をした。シティセールスコンセプトBOOK等を参考にしてシビックプライドという表現をさせていただいた。

【市川委員】

シビックプライドは、日本語でどのような意味か。

【事務局】

誇りという意味である。まちに対する市民の誇り。「このようなまちに住んでいるのだ」という気持ちを盛り上げることで、対外的に発信していければということ。まずは住民の方の意識が高まらないといけないということが基になっている。

【渡辺委員】

7ページの(1)人口の14行目に、出生数や婚姻数の増加等を含んではどうか。次に、8ページの「産業の情勢」に、医療と介護の事業について記述がない。今後、高齢化社会になるうえで大事な産業の1つになるので、追加してはどうか。また、36ページに「独自産業の推進」を追加してはどうか。農業は今単独で直売という形ではなく、ものを店舗や業者に提供して、加工し、それを新たな形で販売する方法もある。

【事務局】

人口や婚姻数等の統計、医療や介護等の記述については、意見をもとに検討させていただく。「独自産業の推進」についてですが、習志野市は今「しょいかーご」に漬物を卸したり、トマトジュースを加工して販売している方はいるが、あまり独自産業は行われていないので、新しい施策に含むか検討させていただく。

【渡辺委員】

農産物を例えばパン屋さんに提供して、パンを作るのもいいかと思う。

【事務局】

以前にもコッペパンのお店からお話があり、農家さんにお話をさせていただいた。今後もし機会があれば積極的にマッチングさせていただく。

【長谷川委員】

15ページの「新習志野駅地区」に、負けない商店街と記載があるが、ホームセンターもスーパーもかなり安く商品が売られている。さらに東側には2つのホームセンターがあり、ほかの地域より充実していると感じるが、どこの地域に負けないという意味か。

【事務局】

習志野市内だけではなく、海浜幕張や南船橋などの周辺地域にも大型施設があるので、それらを想定した。

【長谷川委員】

価格的には、イオン等よりも安く、品も充実していて、撤退されると困る。逆に充実していて、渋滞がひどくなっている。

【事務局】

勝ち負けだけではない部分があるが、どちらかにあるものとないもので、例えば千葉市、船橋市には映画館があるが、習志野市にはないということ。あるものとないものが存在するので、いい意味での競争、共存、協力ができればという部分がある。

【西澤委員】

50ページの主な取り組み①「安心して働ける環境づくり」とあるが、習志野市で働いている方への環境づくりなのか、習志野市在住の首都圏で働く方も含むのか。

【事務局】

基本的には、習志野市内の企業で働いている方々が安心して働けるよう、主に事業者向けに働きかけをしていく。

【西澤委員】

状況的には、習志野市在住の首都圏で働く方が増えると考えられるが、このことについては何か考えているのか。

【事務局】

労働者自身に対する意識啓発という部分にも取り組みたいが、市外にある事業者への周知は難しい部分がある。労働者個人へのPRになると認識している。

【西澤委員】

部署が違うかもしれないが、安心して働けるということは、安心して生活ができるということだと思う。人口が増加したから子供の数も増加している。小学校や中学校の容量がオーバーしている。対策をしていかないと安心して生活や子育てができる環境にならないと思う。

【事務局】

産業振興課の所管ではないが、学校教育部、教育委員会、防犯面であれば防犯安全課等に御意見を、伝えさせていただく。

【長谷川委員】

43ページの「創業希望者への支援」の指標の中で、融資件数が4件とあるが、4社が独立して、会社を営んでいるということか。

【事務局】

創業支援を目的とした資金の件数である。習志野市の制度融資のうち、創業支援を目的としたメニューを利用された事業者が4件あったということ。立ち上げから5年以内であれば、融資を受けられる要件となっているので、その年度に新規に創業されたかは、別の話になる。

【長谷川委員】

産業振興課としては、融資金額ではなく、利子補給、利息の部分で、運転資金2%を市が負担しているという理解でいいのか。それとも、融資金額、上限2000万円を市の予算から、銀行経由でやっているのか。

【事務局】

本市としては、2つアプローチがある。まず、市から銀行にまとまった額を預けることにより、低利で融資制度を運用してもらうのが1つ。そこで発生した利息分は、上限－0.1%と設定して、利子補給をしているのが2つ。以上の2つのアプローチをしている。

【長谷川委員】

銀行から聞いた話だが、例えば設備とかなの場合ですと、個人の部分と会社の部分を分ければといけないと言われた。個人の部分が含まれていると、融資の対象とならない。車の名義や、会社の1部を部屋にしていることは、どこまでが会社でどこまでが個人なのか、ある程度区別できないと融資できないと言われたが、それに間違いはないのか。

【事務局】

主に自動車の話になるが、私的利用が見込まれるようなものに関しては、市の制度融資では設備資金の融資ができない。完全に事業用のもの、例えばトラックや私用にも使えるバン等は、事業者名が印刷されていれば、事業用と認められるが、それらがないと、融資ができない。

【長谷川委員】

個人名義でも、会社でやっていれば、それは資金融資してもらえるのか。

【事務局】

はい。個人名義だからできないということではなく、事業用かどうかで判断している。

【長谷川委員】

42ページの設立法人数239件とかなり2年間で設立されているが上昇の理由は、創業塾経由なのか、それとも関係ないのか。

【事務局】

ここ数年上昇傾向にある。基本的には、創業塾に関しては、毎年度30、40人名程度しか対象となっていないので、それ以外で設備された方が多い。

※ここで欠席された荻野委員から事前にいただいた御意見を事務局が代弁。

【事務局(荻野委員)】

29ページについて、大型店舗に吸収されるがごとく、八百屋、魚屋、肉屋等の店舗が身の回りからどんどん消えていくことを目の当たりにしている。両極端のアンバランスな社会課題をかかえ、それをどう解決していくのか、方法をさぐる取り組みが必要と思う。

【事務局】

我々も必要だと考えているが、ただ大型店、商店街の個店等と共存・共栄を取り組まなければいけないと考えている。現在、各大型店にも地域の商店街に加盟してもらい、イベントを開催し地域発展の取り組みをしている。また個店、商店街はまちゼミという取り組みをしている。今後も新たな取り組みも検討する必要があると考えている。

【事務局(荻野委員)】

31ページについて、谷津商店街入り口にペットボトルでの手作りのイルミネーションを見かけ、心が和み、この地域に暮らす市民の街作りへの思いを感じた。ただし、イルミネーションは夕暮れの少しの時間だけ有効で、商店街は閉店も早めなので、人通りが途絶えた中でどれほどの効果が期待できるか、不明である。

【事務局】

商店街は、大型店と違って深夜営業をしていないのが現状である。ただ、イルミネーション事業設置等に関しては、商店街の方や地域の方々と一緒に設置している。地域を巻き込んだ事業になっているので、今後もこの事業を地域の方々と一緒にやっていけるように支援する。また、別の観点になるが、イルミネーションをやることで、防犯灯ではないが安全・安心の一助を担っていると思う。

【事務局(荻野委員)】

まちゼミの看板は見かけるが、浸透していない。商店街活性化の取り組みに工夫が必要だと思う。

【事務局】

周知に関しては、広報習志野を使用しているが、さらに広まるように検討する。

【事務局】

成果指標等の指標を考える中で、農業の部分で悩んでいる。34ページの「都市農業の振興」について、何をもちて成果と捉えればよいのか。御意見等をいただければと思う。

【渡辺委員】

何十年も都市農業の問題ということで提案されているが、具体的な例は出ていない。しかし、都市型農業という、住民と非常に近い関係がある。ブランド品としての生産を開始し、直売所等の直接市民と触れ合い販売をしている。都市農業については、現在取り組んでいるが、規模が大きくならないので、収益面で非常に生産性が悪い。成り立っているのは、不動産収入等があるから。若い世代は、農業資源だけで頑張ろうとしている。また、直売所の数を何件にすること、独自産業、店舗との商品開発等は数字にできると思う。

【織戸委員】

若手の農家では、市場出荷だけではなく、ほかに力を入れている方々が多い。それは都市農業の強みなので、指標にするのが難しい。

【渡辺委員】

習志野市は AI について、どのような取り組みができて等の検討はあるのか。

【事務局】

市役所では、情報政策という部門で AI を導入しようとしている。産業振興課の事業がどのようにリンクするのかは、まだ見えていない。しかし、キャッシュレス化については、すでに取り組んでいる。

■今後の日程について

【事務局】

次回、第4回の会議については、3月中旬頃から下旬の開催を予定している。

この会議において、2月にパブリックコメントを実施したいと考えておりますので、その結果報告と、策定に向けた審議を行う予定。

【高橋会長】

以上をもちまして、令和元年度第3回習志野市産業振興審議会を閉会いたします。皆様、どうもありがとうございました。

議事録署名人

議事録署名人